

第2次静岡市環境基本計画の環境指標変更について

第2次静岡市環境基本計画の環境指標は、第3次総合計画をはじめ他計画と整合を図っている。
 このような中、今年度は、第3次総合計画の計画期間（2015～2022）中間年にあたるため、全庁的に指標の見直し作業に着手している。また、個別計画においても改定作業に取り組んでいるものもある。
 これら他計画の見直し作業や改定作業により各種指標が変更されるため、本計画も環境指標を変更するものである。

分野	No.	指 標	現状 (H29)	目標 (H34)	変更の有無	変更理由	新指標	現状 (H29)	目標 (H34)
生活環境	1	事業者の公害法令順守率	91.3%	92%	変更無	—	事業者の公害法令順守率	91.3%	92%
	2	文化財保護事業に携わる市民ボランティア数	101人	150人	変更無	—	文化財保護事業に携わる市民ボランティア数	101人	150人
	3	市民一人当たりの都市公園面積	6.33㎡/人	8.0㎡/人	変更無	—	市民一人当たりの都市公園面積	6.33㎡/人	8.0㎡/人
	4	生活排水処理率	83.6%	90%	目標値の変更	一般廃棄物処理基本計画の見直しの中で、これまでの整備状況を踏まえ新たな目標値を設定	生活排水処理率	83.6%	86.9%
自然環境	5	南アルプス主要地域の高山植物数の維持	13種	15種	変更無	—	南アルプス主要地域の高山植物数の維持	13種	15種
	6	環境ボランティア数	4,903人/年	5,200人/年	指標の変更	人材の育成を図るため、これまで「環境ボランティア数」を指標としていたものの、雨天等によりボランティア活動が中止になると参加人数が大きく変動するため、雨天等に左右されない「河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数」に変更する	河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数	86回	100回
地球環境	7	市民及び事業者の電気使用量の削減量	—	8%削減	指標の変更	従前の電気使用量の削減量については、一般市民が一番分かりやすい指標として掲げていたが、電力自由化以降大手電力会社から電気使用量のデータが提供されなくなったため、現在数値の算出できていない このため、省エネルギーに取り組む市民の割合を増やしていくことで温室効果ガスの削減につながることから「省エネルギーに取り組む市民の割合」に変更する	省エネルギーに取り組む市民の割合	57.8% (H30)	62.4%
	8	市内の電気消費量に対する再生可能エネルギーの構成割合	5.62% (23.2%)	6.00% (23.6%)	指標の変更	再生可能エネルギーの導入容量の拡大を図るための指標として設定したが、H25年度の電気使用量を分母として設定していたため、正しい表現で指標を設定する。また、目標値については、大規模水力を含めたものとする。	再生可能エネルギーの導入割合 (H25年度電気使用量比)	23.2%	23.6%
	9	防災スマート街区の形成	0街区	4街区	指標の変更	当初、象徴となる街区を形成することを指標としていたものの、地震や台風による大規模停電発生の際には、改めて各家庭内で分散型エネルギーの導入の必要性を感じたため、市民の皆さんに分かりやすい指標として分散型エネルギーを確保した住宅の割合を指標として設定する	分散型エネルギーを確保した住宅の割合	18.3% (H30)	20.0%
	10	気候変動に対応するための体制整備	・庁内勉強会 ・施策整理	整備	変更無	—	気候変動に対応するための体制整備	・庁内勉強会 ・施策整理	整備
循環環境	11	一人1日当たりのごみ総排出量	928g/人日	860g/人日	目標値の変更	一般廃棄物処理基本計画の見直しの中で、これまでの削減量を踏まえ新たな目標値を設定	一人1日当たりのごみ総排出量	928g/人日	856g/人日
	12	最終処分場への埋め立て量	9,126 t	11,731 t	目標値の変更	一般廃棄物処理基本計画の見直しの中で、これまでの埋め立て量を踏まえ新たな目標値を設定	最終処分場への埋め立て量	9,126 t	7,710 t